

第9課「節制」

*私たちの身体は実に精巧に造られている。また、私たちの心も敏感でデリケートである。それ故に神は素晴らしいものとして私たちを造り上げて下さっている。神の創造物である自然が美しく、神の愛をあかしている様に、私たちも神に似せて創造され祝福を受けた者として神の愛をあかす存在でありたい(創世1:26~28)。

1. 「節制」の必要

- **節制とは**：心を制する事であり、当然それは身体にも関わってくる。節制の意味を調べてみると「度を過ぎない」「規律正しく統制がとれている」「欲望を理性によって秩序あるものとする」とある(大辞泉より)。
- **節制の必要**：私たちの心と身体は、どんな事や、どんなものでも度を過ぎると壊れてゆく。私たちは罪によって、既に神が始めに造って下さった状態から比べるとかなり壊れているのだが、それでもわずかに残る可能性を神は認めて下さって、それを守って下さろうとしている。そのための知恵と教えの一つが「節制」だと思う(イザヤ42:3、マタイ12:20)。
- **真の節制を保つには**：神の言葉を素直に受け止め、神に従順であろうとする時、神は私たちに対して最大限の働きをして下さる(することができる)。自由意志を尊重される神は、私たちの神様に従いたいと思う意思を求められる。人間の知恵や力はほとんど役に立たない。神に寄り頼み、委ね、感謝して従うときに、実のところ私たちは罪の世界にあって力強く生きてゆくことができる。

2. アルコールの問題

*今週の学びでは飲酒を通して節制を学び、不節制の害と不幸を学び、神の御旨を確認している。

- **酔っぱらう**：聖書に出てくる最初の酔っぱらいはノアである。彼は酔っぱらい醜態をさらした(創世9:20)。そしてロトも酔わせられ近親相姦による子どもをもうけ、結果的に彼らは神の敵となった(創世19:30~37)。飲酒は正しい人の正常な心を麻痺させ、容易に悪に導く。
- **アルコールの害**：アルコールの重大な問題は、脳を麻痺させる性質を持っている事である。アルコールを摂取すると大脳辺縁部から脳幹部(呼吸や心臓の働きを制御)へと麻痺が進み、最終的には生命を維持する脳の中核部分まで麻痺させてしまう。そうすると呼吸機能や心拍機能が損なわれ、やがて死に至ってしまう。ちなみに血中のアルコール濃度が0.1%を超えると酩酊状態(真直ぐに歩けない)、0.2%を超えると泥酔状態(錯乱、記憶力の低下、立つことができない)、0.3%を超えると昏睡状態(意識の喪失)、0.4%を超えると昏睡状態から死の危険が訪れるといわれている。急性アルコール中毒はお酒が強い弱いに関わらず、血中アルコール濃度による事が解っている。また、飲酒が習慣となっている場合、アルコール依存症(きわめて深刻な問題)、癌(食道、口腔など)、脳の萎縮(認知症など)、肝臓疾患(脂肪肝、肝硬変、肝臓癌など)、糖尿病、膵炎、胃炎、潰瘍、末梢神経障害、高血圧等数え上げればきりが無い程の病気の原因となっていて、まさに全身を蝕むものである。更に、事故や事件の発生率も飲酒によって増加する事がわかっている。
- **アルコールはドラッグ**：アルコール依存症という病名がつけられているのは、自分の意志で止める事ができない故である。実はアルコールはヘロインに次いで、精神依存、身体依存、耐性形成(度重なる薬物の投与によって効力が低下する)が強い(総合的にコカイン、覚醒剤、マリファナ、カート、LSD-25より上)。
- **アルコールに関する聖書の教え**：基本的に聖書は飲酒を禁じている。旧約時代において飲酒は許容されたものであったと考えられる。これはあくまでも一夫多妻と同様な意味であるとおもわれる。本来飲酒がどのようなものであるかを聖書では神に仕える祭司や王たちに示された言葉によって理解できる(レビ10:8~11、エゼキエル21:23、箴言31:4~5、1ペトロ2:9、2テモテ2:1~13)。新約聖書にも飲酒に関する多くの教訓が示されている(ローマ13:11~14、ローマ14:21、1コリント5:11、1コリント16:9~10、エフェソ5:18、1テサロニケ5:5~8、1テモテ3:2~4、1テモテ3:8~9、テトス1:7~9、1ペトロ4:3) 酒は人を道徳的なもの、霊的なものに無感覚にさせ、潔きと汚れ、善と悪を区別することができなくする。酒に満たされる(酔う)のではなく御霊に満たされていなさいと勧められている。

3. すべてにおいて節制する

- **節制が大切**：あらゆる誘惑(精神的、物質的、霊的など)がある現代社会において、かつての歴史よりもはるかに節制に注意しなければならない。悪の傾向を持つ私たちにとって、神の力の必要は不可欠であり、祈り求めつつ節制を実行したい。節制は、信仰から愛に至る過程において重要である(2ペトロ1:5~9)。偏った、あるいは過度なものは、たとえそれが正しく有益なものであったとしても害となることもある。悪いとわかっているものはなおさらであり、それをあえて行なう事は愚かである。
- **神の神殿**：私たちの心と身体は神から与えられたものであり、本来、神を反映し、神の栄光を表すはずである。罪の結果が現れているとしても私たちは神を悲しませたくない。不節制は個人の問題にとどまらず、愛する者の悲しみや不幸を招いてしまう。愛する大切な人が心身の不健康によって苦しむ姿を見るのは、むしろ本人よりも辛いのである(神は今そんな心境にあられる)。私たちは存在している事、生きている事を通して神をあかしてゆきたい(ヨハネ2:19~21、1コリント6:19~20、1コリント10:31)。